

## 第5回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日時 2024年1月27日(土) 10:00~12:00  
◇場所 県立万葉文化館  
◇参加者 【学生】東、井上  
【現職教員】石田(都跡小学校)  
【万葉文化館】井上、阪口  
【大学教員】大西 計6名

### 学習指導案の検討

#### 1) 井上寿美さん(大学院教育学研究科 伝統文化教育・国際理解教育専攻)

##### 小学校6年 総合的な学習の時間「詩歌を表現してみよう」

漢詩「寒梅」を見て、そこに書かれた意味を考える

詩を声に出して読む 発声 吟じる練習 グループ・全員でミニ発表

「万葉集の和歌を朗詠しよう」 詩吟よりもっと昔の歌

「瓜食めば子ども思ほゆ栗食めばまして偲はゆいづくより来りしものそまなかひにもとなかかりて  
安眠しなさぬ」(山上憶良)

→ 万葉仮名のパズルにして現代の言葉に当てはめてみる

宇利波米婆 伊豆久欲利 胡藤母意母保由 麻斯提斯農波由 ……

憶良の歌を、①そのまま歌う ②作曲する ③書道で表現 ④絵で表現 選択させる

万葉文化館の見学と講話…万葉集についての理解 万葉歌の歌い方

館内図書館で発表に向けて調べ学習

→ 発表会(地域の人に) 持ち時間5分で発表、コメント

学習のふり返り

「今まで奈良に伝わっている文化は他にはないだろうか？」 → 調べ学習、発信

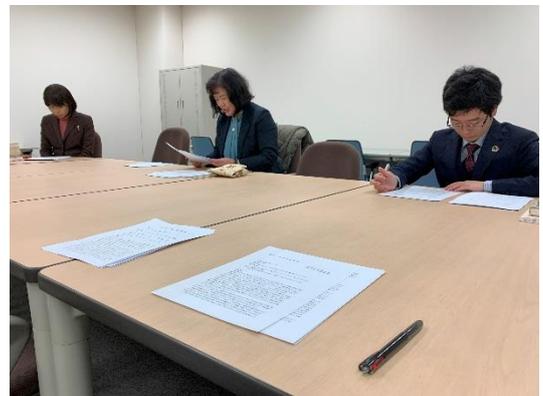
#### 【意見交流から】

- ・万葉集は声の文化だったものを文字にするときに、外国の文字である漢字が必要になった。そういう流れを理解する意味でも興味深い授業になる。
- ・導入でいきなり漢文を見せられても拒否反応を起こす子どももいると思うので、クイズ形式にするなど、何か工夫がいると思う。

「寒」と書いて「冬」と読ませたり、「暖」と書いて「春」と読ませたりしている。

こういう発想の豊かさを感じ取らせたい。

- ・発表会で憶良の歌だけに絞ると、同じ発表が多く出る可能性がある。  
→ いくつか他の歌を用意しておくといいのでは。
- ・その流れからすると、万葉文化館への見学は発表方法を考える前の方がいいのではないか。



- ・「文化」と言われても小学生には幅が広すぎてなかなか考えつかないと思う。
  - 「大切に受け継がれてきたもの」「これからも残していきたいもの」などに言い換える方が。
- ・せっかく地域に向けて発表会をするなら、各自が調べた地域に伝わるものも発表させたい。
  - 発表会はいちばん最後の方がいい。

## 2) 東晃太郎さん(社会科教育専修3回生) 中学校3年 総合的な学習の時間

### 『え！そうなん！ここの地名の由来は万葉集なん？マップ』をつくろう』

～過去 — 現在 — 未来を見つめる道具として～

「万葉集→地名」となったものを探究する

(例) 愛知県の「あいち」

「桜田へ鶴鳴き渡る年魚市潟潮干にけらし鶴鳴き渡る」(巻三)であるが、この「年魚市潟」は「あゆちがた」と読み、名古屋市熱田区、南区の当時海岸であった一帯を指している  
これを紹介し、万葉集が地名の由来となった例を生徒たち自身が探究

→ 万葉歌碑風カードに作成し、マップにまとめていく

「え！そうなん！ここの地名の由来は万葉集なん？マップ」を中学校体験入学で小学校6年生に発信する

→ 小学生から「え！そうなん！」ポイントをつけてもらい、自分たちのまとめや紹介の仕方について評価してもらう

未来次として、

#### ① 今後もあらゆる地名に着目する

その場所の地名の由来は何からきているのかを考えるきっかけになれば

#### ② 万葉集が由来となっているものを見つける

万葉集が過去—現在—未来を見つめる道具として活用できることに意義があると考え

#### 【意見交流から】

- ・万葉集に詠まれた地名が由来になっているものは少ない。中学生が調べるのも難しいと思う。
  - 万葉集が由来となった地名に限定しない。  
由来となった地名は由来となった地名として紹介する。  
万葉集に残されている地名へと範囲を広げる。  
都道府県や市町村単位ぐらいの規模の地名を探っていけるようにする。  
旧国名に着目して表現する方法でもいいのでは。
- ・マップの名称は、「え！そうなん！ここの地名は万葉集に出てくるん？マップ」に変更。
- ・昔との海岸線との違いが見えてくるとおもしろい。  
今は内陸になっているのに、「なぜこの歌は海のことが詠まれているのだろう？」…とか。

